

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会まとめ〔観光〕

地区 テーマ	奥越	若狭	二州（敦賀市、美浜町）	坂井地区および永平寺町	丹南	福井
人づくり	○コミュニケーション手段としての外国人による語学教育を進めるべき。特に今後成長が見込まれる中国、韓国等、東アジアの言語が大事。		○人づくりに関しては、いい意味での田舎化が必要。その時、将来の発展と矛盾しないようなバランスが必要。	○あわら温泉ではインバウンドのことを考慮すると中国語の授業など、特色ある教育を推進するべき。	○子どもたちが故郷のことをよく知らないで大きくなっている。学校、家庭において体験を通じたふるさと教育を実践するとよい。 ○地場産業、地域産業を取り入れたふるさと教育が小学校で盛んに行われている。同様に中学校でも推進して欲しい。	○情報、技術がオープンになり、過去の蓄積だけでは今後活躍していけない。国の産業政策に合わせ、英語、コンピュータ等のキャリア教育に力を入れていくべき。
元気なコミュニティづくり	○コミュニティ維持のために、地域の伝統文化や行事の継承していくことが重要。				○農業、林業、伝統工芸などは技術やノウハウを世代を越えて継承していく必要があり、「知恵袋」として高齢者を活用するべきである。	○農業は、村、まちに産業を興すという視点が必要。生産から販売、地産地消、環境産業、観光までを含めた立体的な農業モデル地区づくりを進めるべき。
環境	○亀山や弁天等の桜の名所を保存する政策を行って欲しい。そのためには、長期的な視点に立ったランドデザインが必要。		○耕作放棄地が増加し、豊かな自然が無くなることを危惧したのをきっかけに農事組合法人を立ち上げた。都市からの農業体験を受入れ、交流を図ることで和が広がっていった。		○ありのままの自然を体験できるグリーンツーリズムを希望する方が増えており、積極的に推進するべき。	
まちづくり	○観光施設の来館者数が増加しているが、と中心市街地の商店の売上に結びついていない。相互の連携を図る必要がある。	○ふるさと教育やふるさとへの愛着とまちの景観をどのように保存するかは深い関わりがある。特色ある景観づくりを進めるべき。 ○祭りがある地域には人が育ち、活気のある地域に育った子どもは、将来、客を連れてきたり、戻ってくる。まちづくり（祭り等）を通じた人づくりを実践するべきである。 ○新幹線や高速道路のインフラ整備は手段であり、それだけでは観光誘客に結びつかない。直結する仕組みづくりが必要である。	○JR直流化により一時的に観光客が増加したが、尻すぼみになっている。ダイヤの見直し等新快速の利便性の向上が必要。	○小松空港から三国へのアクセスが不便であるので、海岸道路の建設による利便性の向上を図ってはどうか。 ○都市には農林業に関心のある若者が多いと聞く。そのような若者を派遣する事業により、地方と都市の若者の交流を促進して欲しい。 ○都市部の若者は農村で暮らしたい人が多く、定住希望者へ仕事を斡旋すると人口が増えると考え。	○雑誌のアンケートによると、福井県は日本で一番印象の薄い県、即ち、福井県自体にパワーが無いと言える。パワーがないなら人を呼び込むべきで、田舎を売り込む方策を考えることが大事。	○高速交通網の整備により、福井の魅力が短時間で知ってもらうための情報発信力と体系づくりが必要。 ○福井城を築いた結城秀康を活用したまちづくりを推進して欲しい。
産業	○観光のトレンドは、見物型から体験型、さらに今後は、長期滞在実践型に変わり、何処に行くかでなく、行った先で何をすることが重要視されるだろう。	○嶺南地域をエネルギー供給地域としてPRするとよい。また、技術蓄積による新産業の創出に取り組むべき。	○新幹線や高速道路のインフラ整備は手段であり、それだけでは観光誘客に結びつかない。直結する仕組みづくりが必要である。	○観光において、「健康長寿」を売りにした戦略を継続するべき。	○漁業においては、付加価値があり、価格の落ち込みが少ない「越前カニ」のような「魚ブランド」の構築と情報発信をする必要がある。 ○中国の富裕層が日本のいい製品を求めている。しかしながら輸出の制約が大きく、アジアマーケット戦略に対する行政の支援が必要である。	○東アジアをマーケットと考えた場合、福井が供給者となり得るかの判断と産業の大規模化が必要。 ○若者が福井に帰ってこないのは、大きな産業が欠けているからである。優秀な人材が育つ産業、優秀な人材を活かせる産業の誘致を進めるべき。 ○新幹線が来るであろう10年後には、福井城跡は観光シンボルとして考える必要がある。